

分野：⑫消費生活・衣食住

## (食品ロスを考える)

環境アドバイザー

関川 忠彦

対象 行田市立太田東小学校 5年1組(9人)

所要時間  1時間

場所 校舎内 図書室 4F

実施時期 令和3年10月18日

### 概要

- 1 「食品ロス」の言葉は聞くが、学習の機会も少なくよくわからない。
- 2 日本の各家庭などの状況から食品ロスを実感しにくいので、世界の話、実態から共通認識を持たせ、気づいたことで今後の対応を考える。
- 3 市報ぎょうだにも特集され、家庭での気づきや学習の話題にしたい。

### プログラムの ねらい

総合の時間に、他の教科と関連する食べ物・食品ロスについて、知って考える。日本と世界の問題、特に食糧自給率の低さと食品ロスの多さを知り、飢餓に苦しんでいる人が世界に多数いることから、私たちができることを考える。食品ロスの自主学習に役立つ資料・情報を提供する(テキスト内容を)

## プログラムの内容

### 1 イン트로(5分)

市報ぎょうだに特集されている「食品ロス」を紹介し、10月は「食品ロス削減月間」を知る。80年前の戦争では日本でも食品が無くて困った時代があったことで、身近な事例から注目する。

### 2 本題(35分)

- 2.1 日本人の昔と今の食生活の変化、食材を多量に輸入する日本、食料自給率などを知る。
- 2.2 低い自給率日本が、もし輸入できなくなった時の食事・献立例を知り感じる⇒大変だ
- 2.3 食べ物がゴミとしてたくさん捨てられている日本の実態を知る。その重量を実感する。
- 2.4 「食品ロス」をしっかりと理解して、市報ぎょうだの特集内容を解説する。
- 2.5 世界で約8億人ものが食べ物と栄養不足の悪循環で飢餓状態なのに、多量の食料が捨てられている。世界の飢餓の実態写真を見てそのひどさから**食料の大切さ**を知る。
- 2.6 日本の家庭の食品ロスの内容や埼玉県/行田市の動きも紹介して、今できる事から行動を。食品ロスを出さないライフスタイルをする(買い物、調理、外食などで)には。
- 2.7 簡単な実践クイズ「買い物の時、皆さんはどうする?」で、できる事から食品ロスの削減を開始しよう。買い物や調理をすることで食品ロスの削減を体験しよう。

### 3 まとめ(5分)

- 3.1 世界で食料不足で苦しんでいる人がいるのに多量の食料がロスに→世界の实態を知る
- 3.2 私たちはできることからやる。食べ物のムダや偏食はしない、買い物や調理をしてみる。
- 3.3 「もったいない」気持ちを以て、買い物、料理、食事をする。

## 受講者の反応

1 担任当日休みで、代行の教頭先生より

1.1 5年生には内容が難しく量的にもたくさんだった。自給率などの%はまだ未習だったが、わかり易く説明したり、身近な事例話で理解しやすかった。

1.2 学習内容が大型画面にあり、わかり易い説明により子供は集中できる。画面のカラーテキストが後日の学習に利用できるのがありがたい。

1.3 途中でクイズがあるなど、子供たちが参加できる流れがあると、より良い。

2 講師の感想

2.1 世界の飢餓の写真で、世界では食品不足があることを知り、食品ロス問題を知ったようだ。

2.2 買い物で原産地を知ることや不要物を買わない習慣がつくのでは・・・

2.3 学校の授業内容に関係付けした構成で、説明画面の資料が後日授業にも使える。

## 環境学習の様子（写真）



イントロで、11月は「食品ロス削減月間」の説明から



「市報ぎょうだ」の図表を解説

後半で、「皆さんはどちら？」の簡単なクイズを。

